

のしろ児童館だより

小松市北浅井町1号21 TEL・FAX 22-6430 平成23年11月号

嬉しかった母のひと言

「五体不満足」の著者 乙武洋匡さんが生まれた時、手も足もない、だるまさんのようなわが子を見て、お母さんはどんな気持ちだったでしょう。

ところが、お母さんは「何てかわいいのでしょうか！」と言われたということです。このことは、乙武さんの第一番目の著書「五体不満足」の一番初めに出てきます。お母さんのこのひと言が、彼の人生を、もっとも奥のところで支えてきたのではないか、ずっとそう思ってきました。五体不満足ながら、歩くことも走ることも、鉛筆を握ることも、食事をすることも、バスケットさえ、彼はやってのけます。ひるむことなく、ひがむことなく、ないものねだりを決してせず、人をうらやまず、卑屈にならず・・・

乙武さんのお母さんのように、子供の一生を左右する言葉を親は口にすることができるのです。何とすごいことでしょう！その一言が、子供を生かしても、絶望のどん底に子供を陥れもします。日常のごたごた、いらいら、つらいことはたくさんありますが、願わくば子どもを元気付け、明日を生きていく力となる言葉が、その口から出ますように。

子どもが嬉しい母のひと言

- ・ 「生まれてきてくれてありがとう」「あなたのことが大事だよ」「大好きだよ」「ありがとう たすかるわ」「あなたなら きっとできると思うよ」「おまえのことを誇りに思うよ」「よくがんばってるね」
- ・ 「いない子？」と僕が聞いたら、「そんなわけないでしょ」と笑って言った。嬉しかった。〔16歳〕
- ・ 「買い物に行こうか。」何気ない誘いの言葉が私は大好きでした。（19歳）

悲しかった、母のひと言

- ・ 「お金あげるから、家出ていって。その方がお母さん長生きできるよ」〔18歳〕
- ・ 「お前は、だめだ」「だからお前はだめなんだ」
- ・ 「ばか」
- ・ 「生まなきゃよかった」 親にはむかついた時に言われたひと言。今でも心にひっかかっています。（18歳）
- ・ 「お兄ちゃん是可以するのに、あんたはどうしてできないの」
- ・ 昔、母さんが父さんとけんかした時、いつも僕に「あんたたち、どっちに行くの？」と聞いたよね。すごく嫌だったんだよ。（18歳）

子供をいらつかせる母のひと言

- ・ 「勉強しなさい」「片付けなさい」「早くしなさい」「もっとがんばれ」